

■ 第2次総合計画

所管部局	所管部局長の氏名
市民部	石嶋 政博
農林水産環境部	吉岡 茂昭

施 策 の 目 的	将来にわたって持続可能な循環型社会の構築をめざし、市民、事業者、環境NPO、行政が連携して、それぞれの役割を担い、限りある資源を有効活用します。
施 策 方 針 (めざす姿)	ごみの資源化について、普及啓発を行うとともに、生ごみ等地域バイオマスの利活用による廃棄物の少ない資源循環型社会の構築をめざします。

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市一般廃棄物処理基本計画	一般廃棄物(ごみ及び生活排水)の処理事業を行う際の基本的な考え方や施策目標、及び目標を達成するための主要施策・方針を定めたもの	平成19年3月	平成18年度～平成32年度	中間目標年度:平成22年度 平成26年度見直し
第2次京丹後市一般廃棄物処理基本計画	一般廃棄物(ごみ及び生活排水)処理に関する基本的な考え方や方向性を示し、目標と目標を達成するための主要な施策を定めたもの	平成27年3月	平成27年度～平成41年度	平成31年度を中間目標年次に設定
京丹後市生物多様性を育む農業推進計画	豊かな自然・農村環境を後世にわたり維持・継続できるよう、「生物多様性を育む農業」を推進し、持続可能な農業の発展を目指すために策定したもの	平成23年6月	平成23年度～平成28年度	
京丹後市環境基本計画	本市の環境に関する状況や市民・事業者等の環境に対する意見等を把握した上で、本市の特性を生かし、環境の保全と環境資源を利用した地域活性化を目指した将来の目標を定めるとともに、その実現のための施策を効果的に推進することを目的に策定	平成22年2月	平成21年度～平成30年度	重点プロジェクトの期間は、平成25年度まで

[illegible]

【参考】総合計画で掲げている市民等の役割

- 1 -

【参考】個別計画で掲げている目標値

指標名	説明・備考	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度	
京丹後市一般廃棄物処理基本計画								
本市におけるリサイクル率	目標値(H22:25.0%)	%	23.7	H17	16.8	H26	30.0	H32
第2次京丹後市一般廃棄物処理基本計画								
再生利用率(リサイクル率)(古紙を含む)	中間目標年度(H31)の目標:27.6%	%	16.9	H25	16.8	H26	27.6	H41
再生利用率(リサイクル率)(古紙を除く)	中間目標年度(H31)の目標:15.6%	%	7.7	H25	7.7	H26	15.6	H41
京丹後市環境基本計画								
エコ京都21認定数(循環型社会形成部門)	限りある資源を有効に活用するまち	事業所	1	H20	1	H26	3	H30
リサイクル率	豊かな財産を環境に生かすまち	%	22.1	H20	16.9	H26	27	H30
環境NPOの数		団体	4	H20	10	H26	5	H30
廃棄物系バイオマス利用率		%	72.9	H19	72.9	H19	96.6	H30
未利用バイオマス利用率		%	5.3	H19	5.3	H19	36.3	H30

3. 総合計画で掲げている施策方針(めざす姿)とめざす目標値

施策方針(めざす姿)	ごみの資源化について、普及啓発を行うとともに、生ごみ等地域バイオマスの利活用による廃棄物の少ない資源循環型社会の構築をめざします。							
めざす目標値	指標名	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度	
	液肥利用量(年)	t	3,882	H25	5,263	H26	7,000	H36
	すべてのごみの資源化量(年)	t	4,720	H25	4,478	H26	6,300	H36
	生ごみ資源化の対象世帯数	世帯	200	H25	286	H26	全世帯	H36
	生ごみの資源化量(年)	t	14.1	H25	15.0	H26	1,400	H36

4. 施策方針(めざす姿)に対する現状評価 **CHECK**

施策方針(めざす姿)に対する主な成果(アウトカム)	施策方針(めざす姿)の達成に向けての課題
○堆肥及び有機肥料・緑肥・液肥等の活用及び普及を図ることで、資源循環による環境保全型農業を推進することができた。 ○エコエネルギーセンターの管理運営に関し、施設の稼働率を上げることで、前年度よりも収支を改善することができた。 ○PRビデオの作成なども含め普及啓発を推進した結果、生ごみ分別参加世帯を増加させることができた。(H26.4月:189世帯→H27.3月末:286世帯) ○レンタル使用してきた破袋分別機を購入及び改造移設することにより、混入異物の分別を容易にし、より効率的に処理する体制を整備することができた。	○市内でも畜産堆肥等の有機肥料を製造しており、それらを利用した市内循環を高めていく取組が必要である。 ○エコエネルギーセンターについて、できるだけ早期に自立した施設となるよう、継続して収支改善に取り組んでいく必要がある。 ○今後、市内全域を対象とした生ごみ資源化に向けた取組を推進(市民への普及啓発と分別収集運搬体制や受け入れ施設の整備)していく必要がある。

5. 施策の進捗状況の評価[施策方針(めざす姿)の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか] **CHECK**

進捗状況区分	評価	理由
◎ 予定以上に進んでいる	▲	地域循環型農業支援事業では対象件数が増加しており、堆肥等を利用した農業の取組が定着しているものの、以下のことからやや遅れていると判断する。 ○エコエネルギーセンターの収支改善は進んでいるが、平成27年度末までの現指定管理期間中に指定管理料不要となることは困難な状況である。 ○生ごみ資源化の取組については、めざす目標値に掲げる指標について、平成26年度の目標世帯数は500世帯であるが、年度末実績は286世帯であり、実績が想定より低い状況にある(ただし、年度内調整により平成27年度当初の取組世帯は700世帯を超えており、年度目標の1,000世帯も達成できると見込んでいる)。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

6. 今後の施策展開と歳出抑制の考え方(平成28～30年度までの3か年の主な取組) **ACT**

区分	No.	具体的内容	説明(特定財源名、補完・代替措置等)
施策展開の考え方	1	有機農業、特別栽培農業など環境に配慮した農業生産を拡大していく。	
	2	エコエネルギーセンターについて、老朽化による施設改修のほか、液肥利用拡大のため、液肥貯留槽の増設、液肥散布設備の増強を検討する。	
	3	年次目標に沿って、生ごみ資源化対象世帯数を段階的に拡大する。	
	4	古紙や小型家電分別の推進に向け、出前講座を含む広報活動を強化する。	
歳出抑制(歳入確保)の考え方	1	できるだけ早期に自立した施設となるよう、継続してエコエネルギーセンターの収支改善に取り組んでいく。	

予算科目	06農林水産業費	01農業費	03農業振興費	04生物多様性を育む農業推進事業																											
細事業名	01 地域循環型農業支援事業			決算書 P.226																											
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市	計画項目	① 自然環境の保全と創造																											
決算額 ①		最終予算額 ②	不用額 (②－①)	執行率 (参考) 当初予算額																											
1,999千円		2,000千円	1千円	99.9 % 2,000千円																											
目的	堆肥及び有機肥料・緑肥・液肥等の活用及び普及を図り、環境低負荷型農業を推進する。																														
主要な事務・事業及び成果の概要	堆肥等（堆肥、液肥、油粕等）を利用して農産物の生産を行う農業者及び組織等に対し、購入経費の一部を助成した。																														
	○環境低負荷型農業促進対策事業費補助金 1,999千円																														
	<table><tr><td>区分</td><td colspan="2">環境低負荷型農業促進対策事業</td></tr><tr><td></td><td>対象件数</td><td>補助金額</td></tr><tr><td>峰山町</td><td>13件</td><td>423千円</td></tr><tr><td>大宮町</td><td>11件</td><td>338千円</td></tr><tr><td>網野町</td><td>9件</td><td>175千円</td></tr><tr><td>丹後町</td><td>5件</td><td>119千円</td></tr><tr><td>弥栄町</td><td>12件</td><td>291千円</td></tr><tr><td>久美浜町</td><td>15件</td><td>653千円</td></tr><tr><td>合計</td><td>65件</td><td>1,999千円</td></tr></table>				区分	環境低負荷型農業促進対策事業			対象件数	補助金額	峰山町	13件	423千円	大宮町	11件	338千円	網野町	9件	175千円	丹後町	5件	119千円	弥栄町	12件	291千円	久美浜町	15件	653千円	合計	65件	1,999千円
区分	環境低負荷型農業促進対策事業																														
	対象件数	補助金額																													
峰山町	13件	423千円																													
大宮町	11件	338千円																													
網野町	9件	175千円																													
丹後町	5件	119千円																													
弥栄町	12件	291千円																													
久美浜町	15件	653千円																													
合計	65件	1,999千円																													
主な財源																															
評価・課題等	○環境に配慮した農業に取り組む農業者の負担軽減を支援することにより、安心安全な農作物の生産と環境低負荷型農業を推進することができた。 ○市内でも畜産堆肥等の有機肥料を製造しているが、利用が低いので高めていく必要がある。																														
事業所管課		農林水産環境部／農政課																													

予算科目	04衛生費	01保健衛生費	07環境衛生費	09I.I.I.福祉・センター管理運営事業	
細事業名	01 I.I.I.福祉・センター管理運営事業				決算書 P.192
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市		計画項目	④ 循環型社会の構築
決算額 ①		最終予算額 ②	不用額 (②－①)	執行率	(参考) 当初予算額
17,103千円		17,103千円	0千円	100.0 %	17,103千円
目的	生ごみ資源化や環境保全型農業の推進など、『環境循環都市』の実現に向けた中核施設であるエコエネルギーセンターの維持管理を行う。				
主要な事務・事業及び成果の概要	○火災保険料 103 千円 ○指定管理料 17,000 千円				
	《施設運営状況》				
			H26年度	H25年度	
	見学者数（人）	市内	71	114	
		市外	266	349	
		国外	41	6	
		計	378	469	
	原料受入量（t）		3,462	2,375	
	発電量（kWh）		592,140	464,282	
	売電量（kWh）		427,970	357,041	
液肥利用量（t） ※		5,156	3,726		
※ 4月1日から翌3月31日までの実績					
主な財源					
評価・課題等	○生ごみ等食品廃棄物を活用したバイオガス発電を行うとともに、液肥利用による資源循環・環境保全型農業を推進することができた。運営コスト削減の取組実施とともに固定価格買取制度の認定により売電収入が増加し、より効率的な施設運営を進めることができた。 ○本施設を活用した市内全域生ごみ資源化を推進し、バイオマス資源の地域内循環を高めていく必要がある。				
事業所管課		農林水産環境部／環境バイオマス推進課			

予算科目	04衛生費	01保健衛生費	07環境衛生費	13資源循環推進事業	
細事業名	01 資源循環推進事業			決算書	P.192
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市	計画項目	④ 循環型社会の構築	
決算額 ①		最終予算額 ②	不用額 (②-①)	執行率	(参考)当初予算額
6,178千円		6,219千円	41千円	99.3 %	17,297千円
目的	エコエネルギーセンターを活用した市内全域の生ごみ資源化推進及び液肥活用による資源循環型農業を推進する。				
主要な 事業 及び 成果 の 概要	生ごみ資源化・ゼロエミッション推進検討委員会で定めた「平成30年度に市内全域の家庭系生ごみの全量資源化」という目標に向け、対象地区の拡大へ向けて啓発を推進するとともに、分別生ごみを効率的に処理するための設備整備を行った。 ○生ごみ資源化事業 2,282 千円 ・消耗品費（液肥タンク設置費用等） 1,264 千円 ・液肥タンク液肥運搬手数料 12 千円 ・PRビデオ作成委託料 177 千円 ・生ごみ処理委託料 829 千円 【家庭生ごみ】 対 象：8地区286世帯（参考：H27.4から757世帯に拡大） 内 容：家庭生ごみを所定の方法で分別収集し資源化する 実 績：15t/年 その他：各協力地区に液肥タンクを設置、地区・団体での講座開催など 【学校等生ごみ】 対 象：市内全保育所・幼稚園・小学校・中学校 内 容：給食調理の際に発生する生ごみを分別収集し資源化する 実 績：20t/年（H26.8から取組開始） ○破袋分別機の導入 3,896 千円 ・破袋分別機購入 1,620 千円 ・破袋分別機移設改修 2,276 千円				
主な財源	繰入金 地域の元気づくり基金繰入金				3,500千円
評価・課題等	OPRビデオの作成なども含め普及啓発を推進した結果、生ごみ分別参加世帯を増加させることができた。 ○レンタルで使用してきた破袋分別機を購入及び改造移設することにより、資源化できない混入異物の分別を容易にし、より効率的に処理する体制を整備することができた。 ○今後、市内全域を対象とした生ごみ資源化に向け、市民への普及啓発と分別収集運搬体制や受け入れ施設の整備を引き続き検討していく必要がある。				
事業所管課		農林水産環境部／環境バイオマス推進課			

予算科目	04衛生費	01保健衛生費	07環境衛生費	17地域バイオマス利活用推進事業	
細事業名	01 地域バイオマス利活用推進事業			決算書	P.194
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市	計画項目	④ 循環型社会の構築	
決算額 ①		最終予算額 ②	不用額 (②-①)	執行率	(参考)当初予算額
231千円		286千円	55千円	80.7 %	289千円
目的	資源循環型社会の構築に向け、下水汚泥等をはじめとする地域バイオマス資源のさらなる利活用を推進する。				
主要な 事業 及び 成果 の 概要	○報償費 4 千円 ・バイオマス活用アドバイザー謝金（1人×1日） ○旅費 170 千円 ・バイオマス活用アドバイザー費用弁償 34 千円 ・下水汚泥等資源化先進地視察、職員旅費 136 千円 ○役務費 38 千円 ・イラスト作成手数料 ○使用料及び賃借料 ・有料道路通行料、駐車場使用料 19 千円				
主な財源					
評価・課題等	○バイオマス活用アドバイザーの派遣や先進地視察の実施により、下水汚泥等の資源としての活用方法について検討することができた。 ○今後、最終的な資源化方法を決定し、具体的な事業化へ向けて、関係各課及び関係する民間事業体と連携しながら取組を推進していく必要がある。 ○家庭生ごみや下水汚泥等の資源化等、今後のバイオマスの取組に関する指針となるバイオマス産業都市構想の策定に必要な取組みが実施できた。				
事業所管課		農林水産環境部／環境バイオマス推進課			

予算科目		04衛生費		02清掃費		01清掃総務費		02古紙リサイクル推進事業																														
細事業名		01 古紙リサイクル推進事業							決算書	P.202																												
総合計画		基本方針Ⅱ 環境循環都市			計画項目		④ 循環型社会の構築																															
決算額 ①		最終予算額 ②		不用額 (②-①)		執行率		(参考) 当初予算額																														
13,012千円		13,869千円		857千円		93.8 %		16,598千円																														
目的	再資源化可能な古紙の回収活動団体に補助金を交付することで、市民のごみ減量意識の高揚を図るとともに再資源化を促し、焼却ごみ量の抑制を図る。																																					
主要な事務・事業及び成果の概要	共同作業所、小中学校PTA、婦人会等古紙回収団体に対し、回収量に応じた補助金を交付した。																																					
	○需用費 98千円																																					
	・ 消耗品費（古紙回収コンテナ） 98千円																																					
	○負担金、補助金及び交付金 12,914千円																																					
	・ 古紙回収団体補助金（5円/kg×2,583t）																																					
	申請件数（延べ） 142件																																					
	交付団体数 53団体																																					
	【内訳】 (単位：t)																																					
	<table><tr><td>年度</td><td>新聞紙</td><td>段ボール</td><td>雑誌</td><td>紙パック</td><td>雑がみ</td><td>合計</td></tr><tr><td>H26</td><td>965</td><td>981</td><td>613</td><td>13</td><td>11</td><td>2,583</td></tr><tr><td>H25</td><td>1,030</td><td>1,064</td><td>673</td><td>23</td><td></td><td>2,790</td></tr><tr><td>H24</td><td>1,127</td><td>764</td><td>1,069</td><td>18</td><td></td><td>2,978</td></tr></table>										年度	新聞紙	段ボール	雑誌	紙パック	雑がみ	合計	H26	965	981	613	13	11	2,583	H25	1,030	1,064	673	23		2,790	H24	1,127	764	1,069	18		2,978
	年度	新聞紙	段ボール	雑誌	紙パック	雑がみ	合計																															
H26	965	981	613	13	11	2,583																																
H25	1,030	1,064	673	23		2,790																																
H24	1,127	764	1,069	18		2,978																																
主な財源	諸収入		オータムジャンボ宝くじ市町村等交付金						9,822千円																													
	諸収入		資源回収の古紙販売代金						187千円																													
評価・課題等	○補助金交付により、古紙の再資源化の促進と市民のリサイクル意識の向上の一助となった。また、平成26年4月から「雑がみ」を分別品目に加え、市民に分別を呼び掛け、雑がみの資源化に向けた取組を進めた。 ○峰山クリーンセンターの焼却ごみの組成中、「紙・布類」は46.6%を占めていることから、施設の処理負荷軽減及び最終処分場の延命（焼却灰の減量）を図るため、さらに「雑がみ」の分別・再資源化を推し進める必要がある。																																					
事業所管課		市民部／市民課																																				

予算科目	04衛生費	02清掃費	01清掃総務費	04小型家電リサイクル推進事業	
細事業名	01 小型家電リサイクル推進事業				決算書 P.202
総合計画	基本方針	Ⅱ 環境循環都市		計画項目	④ 循環型社会の構築
決算額 ①		最終予算額 ②		不用額 (②-①)	執行率
320千円		320千円		0千円	100.0 %
					(参考) 当初予算額 141千円
目的	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律に基づき、携帯電話やデジタルカメラ等の小型廃家電を分別回収・リサイクルすることで、有用金属の再資源化を図る。				
主要な事務・事業及び成果の概要	分別回収した小型廃家電を国の認定事業者へ運搬し、売却処分した。 ◎役務費 ○小型電子機器運搬・処理（リサイクル）手数料 320千円 ・ 処理量：67.1t（うち、17.8tは市内小中学校のPC分） ・ 売却単価：6円/kg ・ 運搬手数料単価：6円/kg				
主な財源	諸収入 資源ごみ売却代金				435千円
評価・課題等	○小型廃家電を分別回収し、売却処分することで、効率的に小型廃家電の再資源化を図ることができ、埋め立てごみの抑制ができた。 ○有用金属の回収・再資源化を推進するため、さらに周知を行い、制度の定着を図る必要がある。				
事業所管課		市民部／市民課			